

海外安全対策情報（2022年4月～6月） （カンタベリー地域）

1 ニュージーランド(NZ)国内全体の治安情勢

(1) 治安情勢

ア テロ関係

NZ政府は、国家テロ脅威度を5段階で示しているところ、現在の脅威度は「中程度」（テロ攻撃は実現可能であり十分に起こりえる）としています。実際に、2019年3月、クライストチャーチのモスク2か所に対する銃撃事件が発生し、51人が死亡しました。また、2021年8月、オークランドのスーパーマーケット内で刃物を使用した襲撃事件が発生し、8人が負傷しており、引き続き、テロに対する警戒が必要です。

イ 一般治安関係

NZでは、強盗や侵入窃盗、車上ねらいや繁華街での暴行事件が、多く発生しているため、防犯対策には十分な注意が必要です。犯罪組織（いわゆるギャング）の抗争もしばしば勃発しており、これらに巻き込まれることのないよう、繁華街等では特に注意してください。また、電話等でお金を騙し取る特殊詐欺が多発していることから、不審な電話等には十分に注意してください。このほか、NZ国内では覚醒剤（メタンフェタミン）等の薬物犯罪が社会問題化していますので、留意してください。

(2) 犯罪の傾向

ア 犯罪の発生状況

昨年中のNZ国内における人口1万人当たりの強盗事件（Aggravated Robbery）の発生率は、日本と比べ約51.3倍、性犯罪の発生率は8.7倍、住居侵入・侵入窃盗の発生率は31.5倍に上ることから、十分な注意が必要です。

※ 犯罪発生率は、2021年1月から12月における警察庁統計と Policedata.nz Victimisations Time and Place を基に、当館にて集計したものです。

イ 注意すべき犯罪と対策

被害に遭わないためには、警戒心を持ち、周囲の変化に気を配ることが大切です。日常生活において、心配のあまり過剰に反応し過ぎる必要はありませんが、いざというときのため、普段の生活の中で様々なケースを想定しておくこと、実際の事件に遭遇したときにもパニックに陥らずに対処できる可能性が高まります。

(ア) 窃盗・強盗

特に、侵入窃盗（空き巣等）や車上ねらい、置引きに注意してください。必要に応じて、自宅に防犯用のセンサーやカメラを設置し、貴重品やバッグを車内に放置しないようにするなど、日頃から自身の防犯意識を高めてください。また、貴重品のシリアル番号等を控えておくなど、被害に遭った際の対策もご検討ください。

また、夜間はもちろん、昼間や夕暮れでも、人通りの少ない場所での独り歩きは避けましょう。自分の身は自分で守るという意識を持って行動することが大切です。

(イ) 暴行・傷害

繁華街では飲酒がらみの暴行・傷害事件も発生しています。泥酔して気が荒くなっている人を見かけたときには、相手をジロジロと見ないよう気を付けながらも、その人に不意を突かれないように留意してください。

(ウ) 薬物犯罪

NZでは覚醒剤（メタンフェタミン等）の乱用が社会問題となっています。繁華街の路上や深夜のバー、ナイトクラブ等で知らない人に声を掛けられても、絶対に薬物に手を出さないでください。犯罪組織等の収入源にもなっているため、NZ警察は薬物犯罪を厳しく取り締まっています。

(エ) 特殊詐欺

電話やテキストメッセージ等でお金を騙し取る特殊詐欺が多発しています。不審な電話がかかってきた時には、一旦電話を切り、先方の電話番号を調べてから、かけ直してください。ネットバンキングを利用する際は、二段階認証を利用し、二段階認証のコードやパスワードは誰にも教えないようにしてください。不審なテキストメッセージやメールに貼られたリンクをクリック又はタップしないようにしてください。また、不審なテキストメッセージを内務省の通報先（7726）に転送し、万が一、不審なリンクをクリック又はタップしてしまった場合や二段階認証コードを他人に教えてしまった場合は、すぐに銀行に連絡するとともに、コンピューター緊急対応チーム（Computer Emergency Response Team : CERT）に通報してください。CERTの通報先は、<https://www.cert.govt.nz/individuals/report-an-issue/>です。

ウ 最近の犯罪及び事故等

- (ア) 4月23日、ウェリントン市内（Dixon Street）及びタワ（Tremewan Street）において発砲事件が発生し、2人が重傷を負いました。警察はギャング構成員を含む、少なくとも7人を逮捕しています。
- (イ) 4月23日、ウェリントン市内（Te Aro）に所在する女性宅において、強盗・暴行事件が発生しました。後日、警察は犯人の男を逮捕しています。
- (ウ) 5月16日、ハット市ローワーハット（Wainuiomata）のガソリンスタンドにおいて、盗品のショベルカーを利用して店舗の壁を破壊し侵入する事件が発生しました。後日、警察は犯人の男を逮捕しています。
- (エ) 6月8日、ワイカト及びウェリントンにおいて、NZ警察及び税関の合同オペレーションが実施され、覚醒剤435グラムが押収されました。このオペレーションで、10人が逮捕されています。

(オ) 6月27日、クライストチャーチ (Sockburn) において、通り魔が女性を刺殺する事件が発生しました。事件後、警察は犯人の男を逮捕しています。

エ 邦人が巻き込まれた事件・事故

2021年5月31日夕方、クライストチャーチにおいて、在留邦人2人(未成年)が暴行に遭う被害が発生しました。なお、犯行時、犯人はアジア人に対する差別的な発言をしています。

(3) テロ・爆発物事件発生状況等

ア テロ事件

(ア) クライストチャーチのモスク2か所に対する銃撃事件

2019年3月15日、クライストチャーチに所在する2か所のモスクにおいて、銃撃事件が発生し、51人が死亡し、数十人が負傷しました。実行犯として逮捕された豪州国籍の男は、白人至上主義を主張する過激思想の持ち主で、逮捕時に軍用半自動小銃等を所持していました。事件後、NZ政府は銃規制を強化するなどテロ防止に向けた対策を推進していますが、国内には依然として多くの猟銃等が流通しており、引き続き、警戒が必要です。

(イ) オークランドのスーパーマーケット内における刃物使用襲撃事件

2021年8月、オークランド郊外に所在するスーパーマーケット内において、刃物使用数劇事件が発生し、8人が負傷しました。実行犯はその場で警察に射殺されました。犯人はスリランカ難民で、ISILの過激思想を支持しているとして2016年から当局の監視下にあったとされています。

イ 留意事項

テロの類型別の留意事項は以下のとおりとなります。

(ア) 刃物を用いたテロ

- 犯人との距離を取る。周囲にある物を使って攻撃から身を守る。

(イ) イベント会場、空港等の屋内でのテロ

- 不測の事態の発生を念頭に、出入口や非常口、避難の際の経路等についてあらかじめ入念に確認する。
- 会場への出入りに際しては、混雑のピークを外し、人混みを避ける。
- セキュリティが確保されていない会場の外側や出入口付近は危険であり、こうした場所での人混みや行列は避けるようにする。空港等では、人の立入りが容易な受付カウンター付近に不必要に近寄ったり長居したりすることはせず、セキュリティ・ゲートを速やかに通過する。
- 二次被害を防ぐため、周囲がパニック状態になっても冷静に行動するよう努める。

(ウ) 車両突入型テロ

- ガードレールや街灯などの遮へい物がない歩道等では危険が増すことを認識する。

- 歩道を歩く際は、できるだけ道路側から離れて歩く。

(エ) 爆発物、銃器を用いたテロ

- 爆発や銃撃の音を聞いたら、その場に伏せるなど直ちに低い姿勢をとり、頑丈な物の陰に隠れる。

- 周囲を確認し、可能であれば、銃撃音等から離れるよう、低い姿勢を保ちつつ速やかに安全なところに退避する。閉鎖空間の場合、出入口に殺到すると将棋倒しなどの二次的な被害に遭うこともあるため、注意が必要。

- 爆発は複数回発生する可能性があるため、爆発後に様子を見に行かない。

(4) 日本企業の安全に関する諸問題

特に認知されていません。

2 カンタベリー地域

(1) 一般治安関係

夜間における窃盗、特にクライストチャーチ市内のガソリンスタンド、コンビニエンス・ストア等でタバコや現金を狙った強盗事件が多く発生していますのでご注意ください。

在留邦人宅を含む空き巣等の被害も報告されており、住居においては、防犯ベルを設置するなどの自衛手段を講じるとともに、日頃から隣人との交流を図る等して、安全対策に心掛けることが必要です。

飲酒運転による事故被害、飲酒を伴うバーでの暴力事案及び深夜路上での外国人等に対する暴行事件等が発生していますので、注意が必要です。

また、車上荒らしが多発しています。車を駐車する際は、車内に物を放置せず、かつ、人通りの少ない場所に駐車しないことなどに留意してください。

(2) 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

ア NZ警察が発表した2021年6月～2022年5月のカンタベリー地域の犯罪発生件数報告によれば、総犯罪発生件数は9,932件と前年同期と比較して15.6%減少しています。主な犯罪種別の内訳は以下のとおりです。

殺人関連	20件	(前期比23.1%減少)
傷害関連	1,269件	(同21.3%減少)
性犯罪関連	175件	(同2.3%増加)
強盗関連	134件	(同59.5%増加)
空き巣関連	293件	(同14.6%減少)
窃盗関連	947件	(同23.3%減少)

イ 最近の殺人・強盗等凶悪犯罪の事案

- (ア) 4月27日午前2時頃、クライストチャーチ市ハンツブリー地区の酒店への車の突入により、同酒店の入口等が破壊されました。事件の目撃者が同酒店近くに現れたため、犯人は車でそのまま逃走しました。
- (イ) 6月13日午前7時30分頃、クライストチャーチ市ホーンビー地区のコンビニエンス・ストアに2人の男が開店直後に押し入り、女性従業員を投げ倒してタバコを奪い逃走しました。
- (ウ) 6月25日午後4時20分頃、クライストチャーチ市ソックバーン地区の歩道で、女性が仕事からの帰宅途中、自宅の近くのバス停で降車し歩いていたところ、通り魔により刺殺された事件が発生しました。容疑者は逮捕されています。

ウ 邦人が巻き込まれた事件・事故

2021年5月31日夕方、クライストチャーチにおいて、在留邦人2人(未成年)が暴行に遭う被害が発生しました。なお、犯行時、犯人はアジア人に対する差別的な発言をしています。

(3) テロ・爆弾事件発生状況

2019年3月15日(金)午後1時45分から午後2時15分の間、クライストチャーチ市内の2か所のモスク内外で男が銃を乱射し、多数の死傷者が出ました(犯人は逮捕)。また、今年3月4日には、同襲撃事件の攻撃対象となったクライストチャーチ市内の2か所のモスクに対して、15日、車爆弾を含むテロ攻撃をオンラインで予告したとして、男性2名が逮捕されました。

NZ警察は、依然としてテロ警戒態勢を強化しています。不測の事態に巻き込まれないよう以下の対策に努めてください。

ア 最新の関連情報の入手に努める。

イ 次の場所は特にテロの標的になりやすいことを十分認識し、これらの場所を訪れる際には、周囲の状況に注意を払い、不審な人物や状況を察知した際には速やかにその場から離れる。

モスク及び教会等の宗教関係施設、公共交通機関、政府関連施設(特に軍、警察及び治安関係施設)、観光施設や観光地周辺の道路、コンサート会場、記念日・祝祭日等のイベント会場、レストラン、ホテル、ショッピングモール、スーパーマーケット、ナイトクラブ、映画館

ウ コン서트会場、スポーツ競技場など多くの人が集まる場所を訪れる際には以下の点に注意する。

- ・会場には時間より早めに入る、終了後はある程度時間が経ってから退出するなどして、人混みを避けるようにする。
- ・セキュリティが確保されていない会場の外側や出入口付近は特に危険であり、こうした場所での人だまりや行列を避ける。
- ・不測の事態の発生を念頭におき、会場の出入口や非常口、避難の際の経路などについてあらかじめ確認しておく。
- ・周囲がパニック状態になっても冷静さを保つように努める。

エ 銃撃、爆弾等の事案に遭遇した場合には、以下のとおり冷静に行動し、警察官等の現地当局の指示があればそれに従う。

- ・爆発、銃撃の音を聞いたらその場に伏せるなど直ちに低い姿勢をとる。
- ・頑丈なものの陰に隠れる。
- ・周囲を確認し、可能であれば、速やかに低い姿勢を保ちつつ安全なところに退避する。閉鎖空間の場合、出入口に殺到すると将棋倒しや2度目の爆発などの被害に遭うことがあるので注意する。

(4) 誘拐・脅迫事件発生状況

警察当局の発表によれば、2021年6月～2022年5月までのカンタベリー地域で発生した誘拐・脅迫事件は311件（前年同期比21.1%減少）。

(5) 日本企業の安全に関わる諸問題

特にありません。

(了)